令和2年4月 教育庁指導部義務教育指導課

「学びの支援サイト」の学習コンテンツを活用した家庭学習の流れ

学校

1　児童・生徒が、家庭において学習コンテンツを活用するための準備を行う。

- 家庭学習の「時間割」を作成する。 ＜資料(1)を参照＞
- 時間割の中にある各「コンテンツ」の時間に活用する「動画教材」や「ドリル教材」を明確にしておく。 ＜資料(2)を参照＞

2　活用方法の説明資料を作成し、学校のホームページへの掲載などを行う。

児童・生徒が、「学びの支援サイト」内にある学習コンテンツを活用して学習を進められるようにする。

学校（臨時休業終了後）

- 児童・生徒から提出されたドリル教材やノートの記述から、取組状況を確認する。
- 特に定着していない学習内容については、個別指導を行うなど工夫する。

家庭

児童・生徒は、「時間割」に沿って、学習コンテンツを活用した家庭学習を行う。 ＜配慮事項は、資料(3)を参照＞

家庭学習例（1）　※1単位時間で一つの学習内容

（使用教材）NHK for school［動画教材］
東京ベーシック・ドリルなどの問題［ドリル教材］

（学習の進め方）

① 「NHK for school」の動画にある説明文を読む。
② 動画を見る。
③ 動画を見終えたら、動画に関連する問題に取り組む。分からないときは、教科書を見たり、動画を見直したりする。
④ 答え合わせをする。間違えた問題や分からなかった問題は、教科書や動画を見て、できるようにする。
⑤ ドリル教材の空いているところに、動画を見た感想や気付いたことを記入する。

家庭学習例（2）　※1単位時間で二つの学習内容

（使用教材）NHK for school［動画教材］

（学習の進め方）

① 「NHK for school」の動画にある説明文を読む。
② 動画を見る。
③ 動画を見て、理解できなかったことがあったときは、教科書などで調べて理解する。
④ ノートに、動画を見た感想や気付いたことを記入する。
⑤ 二つ目の学習内容についても、①～④の学習の流れで家庭学習を行う。

NHK for school

「学びの支援サイト」内にリンクが貼られている「学習支援コンテンツポータルサイト」（文部科学省）に掲載されている。

東京ベーシック・ドリル

「学びの支援サイト」に掲載している。

家庭学習の時間割（例）

１週間の家庭学習「時間割」（例）※小学５年生の例

児童・生徒に対して、次のような「時間割」により、家庭学習の進め方を示す。

曜	8:30～9:00	9:00～10:00	10:00～11:00	11:00～12:00	12:00～13:00	13:00～14:00	14:00～15:00
月	朝の体操	算数（コンテンツ）		図画工作（学校の宿題）	昼食・昼休み	読書タイム	理科（学校の宿題）
火		算数（学校の宿題）		社会（コンテンツ）			体育（学校の宿題）
水		国語（学校の宿題）		音楽（学校の宿題）			算数（学校の宿題）
木		社会（学校の宿題）		道徳（コンテンツ）			国語（学校の宿題）
金		理科（コンテンツ）		家庭（学校の宿題）			外国語（学校の宿題）

※空いている時間は、家の手伝いや簡単な運動等を行う。

学習コンテンツを活用した「１単位時間の家庭学習スタイル」 ※ 家庭学習例（１）をもとに

①動画を見る → ②問題に取り組む → ③答え合わせをする → ④見直しをする → ⑤まとめをする

	①			②	③	④	⑤
	動画の説明文を読み、動画の内容を大まかに理解する。	動画を見る。	分からなかったことがあったときは、教科書を見て確かめたり、動画を改めて見直したりする。	「東京ベーシック・ドリル」などのドリル教材の問題に取り組む。	答え合わせをし、間違えた問題は正しい答えを赤で書く。	間違えた問題は、教科書を見たり動画を見直したりして、なぜそのような答えなのかを理解する。 理解できない問題は、付せんを貼り、臨時休業終了後に先生に聞く。	ドリル教材の空いているところに、動画を見た感想や気付いたことを記入する
(例)	5分	5分	10分	15分	5分	10分	10分

「学びの支援サイト」に掲載されている学習コンテンツ（抜粋）

東京都教育委員会ホームページ

動画教材

教科書を見ながら動画を視聴することで、学習内容をより深く理解することができる。

【掲載箇所】

「学びの支援サイト」内にリンクが貼られている「学習支援コンテンツポータルサイト」（文部科学省）に掲載

【コンテンツ名】 **NHK for school**

【教科等】

＜小学校＞　社会、算数、理科、生活、体育、図画工作、家庭、英語、道徳、総合的な学習の時間

＜中学校＞　社会、理科、技術、総合的な学習の時間

ドリル教材

動画を視聴した後に、学習したことが理解できたかどうかを確認するための問題に取り組み、学習内容の定着を図る。

【掲載箇所】

「学びの支援サイト」内にリンクを掲載

【コンテンツ名及び教科等】

東京ベーシック・ドリル

小１～中１：国語、算数・数学、社会、理科、英語

児童・生徒の学力向上を図るための調査

小５・中２：国語、算数・数学、社会、理科、英語

都立高校入学者選抜　学力検査

中３までの学習内容：国語、社会、数学、理科、英語

全国学力・学習状況調査

小６・中３：国語、算数・数学、理科、英語

※　その他、各教科用図書の出版社が独自にサイトを立ち上げ、ワークシートや音読教材等を掲載している。

● **家庭学習例（１）の具体的な事例**

（動画教材）**NHK for school**
小３理科「電気が流れるつなぎ方」の動画を見る。

（ドリル教材）**東京ベーシック・ドリル**
小３理科「9-1 電気の通り道」の問題に取り組む。

家庭学習を効果的に行うための配慮（例）

家庭学習における教師の役割

１週間の流れ

学習の仕方を指導する。

○　家庭学習をどのように取り組めばよいか、家庭学習の方法を指導する。
○　計画的に取り組ませることの大切さを伝える。

子供の様子を個別に確認する。

○　担任が定期的に、電話等で児童・生徒と会話をし、健康状態や家庭学習状況を確認する。
○　規則正しい生活を送るよう指導する。

教材を活用して学ばせる。

○　学習コンテンツの教材や持ち帰らせたワークシート等に取り組ませる（家庭学習の時間割参照）。
○　自己採点を行わせる。
○　学習記録を付けさせる。

頑張っていることを、褒め、認める。

○　自分一人の力で努力していることを、褒め、認める。
○　メール配信等により、学級・学年全体に励ましや声掛けを行い、帰属意識を持たせられるようにする。

家庭学習による学力の評価について

1　直接会わない状況で（児童・生徒へ電話等で連絡をする際に）評価すること

○　家庭学習の進み具合や、自己採点の結果を尋ねる
○　宿題や学習コンテンツの内容に関する学習内容を質問する。
○　質問して分からなかったときは、関連のある教科書のページを示し、読むよう伝える。
○　時間割どおりに家庭学習が進まないときは、個に応じた取り組み方をアドバイスする。
○　「知識・技能」や「思考・判断・表現力」だけでなく、「学習に取り組む姿勢」も評価する。

2　臨時休業終了後に確実に評価すること

○　家庭学習の内容に関するテストを実施するなどにより、内容が確実に身についているかを評価する。
○　特に定着が十分でない学習内容は、個別指導を行うなど工夫する。